

人文科学研究科 女性学専攻

専攻DP（教育目標）

DP 1 女性学及びジェンダー研究に係る専門的知識を習得し、活用することができる。

DP 2 人文科学、社会科学の諸分野における女性学、ジェンダー論の視点や研究方法を理解し、女性学及びジェンダー研究において、国際的かつ学際的視野と高度な研究方法によって自ら設定した課題について探究することができる。

DP 3 ジェンダー研究の成果をもって、ジェンダー平等社会の実現に向けて、国際社会における、性差別の実態を正確に把握し、その撤廃に取り組むことができる。

DP 4 専門とする分野の必要に応じて、一つ以上の外国語によって、専門的な内容を話し、聞き、書き、読むことができるとともに、ジェンダー平等社会の実現を推進する視野と実行力を修得し、各職業領域において、多様な立場の人々が共に生きやすい社会の実現に貢献することができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
基礎論	女性学基礎論(思想と理論)	2	必修	○			この授業では、女性学に関する基礎的な知識を履修者全員が習得することを目標とする。ジェンダー研究の基礎となる文献を取り上げて講読し、フェミニズムの思想と理論を幅広く学ぶ。特に、欧米の文献を中心に上げ、第一波フェミニズム、第二波フェミニズムの主張に重点を置く。また思想と理論だけでなく、フェミニズムの歴史・運動史についても幅広く学ぶ。授業で学習したことが、現在のジェンダー研究にどのように受け継がれているのかを理解する。		◎		
	女性学基礎論(研究/調査法)	2	必修				この授業では、社会調査で用いられる主な用語、および調査票調査や質的調査の方法についての知識の修得をつうじて、とくに社会学の研究/調査方法を理解し、自ら設定した課題を探究する力を養うことを目標とする。前半は、社会調査の考え方、調査票調査や質的調査の方法について、講義を中心とする。後半は、随時、各人の関心や研究テーマにふさわしい調査方法を見出し、実際の調査計画の報告を通じて、調査の考え方についての理解を深め、調査方法を身につけることとする。		◎		
専門科目	ジェンダー研究:社会A	2	選択	○			この授業では、持続可能性という観点から、人口減少社会日本の将来像を把握し、今後の社会政策の課題について学ぶ。テキストを用いて、持続可能な社会とは何か、その際に不可欠なジェンダー視点とは何かを考える。また諸外国における政策の動向について最新情報に触れつつ、ディスカッションを行う。最終的には、日本における家族政策・ジェンダー政策の課題について十分な知識をもとに自身の見解を示せるようになることを課題とする。	◎	○		
	ジェンダー研究:社会B	2	選択				この授業では、労働とジェンダーについての文献輪読を通じて、女性学・ジェンダー研究の専門的知識を身につけ、視点や研究方法を理解し、自らの課題設定、課題探究の力を養うことを目標とする。はじめに、社会科学における労働の論じ方を学ぶ。ついで、女性解放運動や日本のジェンダー平等の取り組みについて理解する。その後、労働領域についてのジェンダー研究の視点や現状分析を理解するために文献精読を行なう。	◎	○		
	ジェンダー研究:社会C	2	選択				この授業の目標は、国際開発課題とジェンダーや多様性の課題の関連性を理解し、ジェンダー視点に立った国際協力を進めていくための基礎知識、実践的なスキルや考え方を身に付け、グローバル人材としての基礎能力を養うことである。アジア・アフリカにおけるジェンダーと多様性と交差性の観点から、社会・コミュニティの開発政策へのインプリケーションをケース・メソッドや参加型演習を通じて理解を深める。	◎	○		
	ジェンダー研究:社会D	2	選択				This course will provide students with a basic knowledge and understanding on the current state of girls/women and gender issues. Students are required to get familiarize themselves with some of the key terms often used in gender studies. Attempts will also be made to do some comparative analyses between Japan and other Asian countries especially on women's status and gender-related issues, and discuss further how we could change those situations towards more gender equal society.	◎	○		
	ジェンダー研究:文化A	2	選択				「ジェンダー研究:文化A」は、西洋美術史、視覚文化、表象文化におけるジェンダー批評を授業のテーマとする。美術史分野でのジェンダー批評のあり方の歴史・現状・展望について学び、文献、画像、映像など、多様な資料を対象として、新鮮な視点でジェンダー批評を考え試みることを授業の到達目標とする。	◎	○		
	ジェンダー研究:文化B	2	選択				「ジェンダー研究:文化B」は、時代、民族、階級、性、環境が、どのように個人の存在を規定しているかを、日本の代表的な女性文学のテキストを通して考察する。これらの学習から文学を分析する力、文化への視点を養成する。日本の代表的な近・現代の女性文学テキストを選び、作品を分析し、ジェンダーと文化のかかわりを明らかにしていく。	◎	○		
特別講義	ジェンダー特別講義A	2	選択				「ジェンダー特別講義」は、女性学、ジェンダー研究の基礎及び専門領域の知識や視野を広げるために、特別なテーマを設けて行われる授業である。「ジェンダー特別講義A」では、「ことばとジェンダー」に関わる文献を読み解きながら、その問題や課題を理解するとともに、それらについて自分自身で考える力をつけることを目標とする。また、これらの日本語の問題を「外国人に対する日本語教育」にいかにかかすかについても考える。	◎	○		
	ジェンダー特別講義B	2	選択	○			日欧の家族政策・ジェンダー政策を諸外国と比較しながらその特徴や背後にある理念を理解する。テキストを用いながら、特にドイツの家族・ジェンダー政策に注目し、出産や子育てに対する社会的支援がどのように展開されてきたのかを理解する。履修者は、発展的にヨーロッパ諸国やアジア諸国との比較について学習し報告する。講義、文献講読、履修者による発表とディスカッションを通じて、今後の政策課題を考える。	◎	○		
	ジェンダー特別講義C	2	選択				「ジェンダー特別講義」は、女性学、ジェンダー研究の基礎及び専門領域の知識や視野を広げるために、特別なテーマを設けた授業を行う。「ジェンダー特別講義C」では、主に日本の家族について、日常生活領域で起きている事象に光をあてながら、時代変遷や英米圏と比較しつつ理解する。東アジアという地域の家族の特性を踏まえながら、個人および社会の未来を構想する力を身につける。	◎	○		
	ジェンダー特別講義D	2	選択				「ジェンダー特別講義D」は、女性学、ジェンダー研究の基礎及び専門領域の知識や視野を広げるために、特別なテーマを設けた授業を行う。	◎	○		
資料講読	女性学英文資料講読A	2	選択	○			「女性学英文資料講読A」の目的は、英語で女性学・ジェンダースタディーズに関する研究活動を行うために必要な能力を養うことである。基本的な概念や理論を学ぶとともに、女性学・ジェンダースタディーズの関連する問題について英語で考察し、議論する。講義の終了時には、この分野における様々な学術的活動に従事するための理論的知識と言語的スキルの両方を身につけることができる。	◎			○
	女性学英文資料講読B	2	選択	○			「女性学英文資料講読B」の学習到達目標は、英語を母語としない女性学専攻の大学院生が、女性学の専門分野に関する英文資料を読みこなす実力を養成することである。女性学とジェンダー研究に関して英語で書かれた資料の選定、意味の理解、専門文献の読解へ、が学習テーマである。授業では、参加者の英語読解力の確認、その結果に従った資料の選定と授業の進め方の決定、資料の音読、講読、意味の確認、新聞・雑誌の新着記事や新しい話題、図書館・インターネットの利用などについて扱う。	◎			○
	女性学英文資料講読C	2	選択	○			「女性学英文資料講読C」では、女性学およびフェミニズム論、ジェンダー論、開発論などに関連する英文テキストを読み、女性学やジェンダー論に関連する基本概念について理解を深めるとともに、研究者として自立し、研究活動を行うために、英語の文献を読み解く能力を身につけ、強化していく。文献講読により女性学およびジェンダー研究に係る専門的知識を身につけるとともに、国際的かつ学際的視野を広げ、自ら設定した課題について探求することができるようにする。	◎			○
	女性学日本語資料講読A	2	選択	○			「女性学日本語資料講読A」の学習到達目標は、女性学の専門分野に関する日本語資料を読みこなす実力を養成することである。女性学とジェンダー研究に関して日本語で書かれた資料の選定、意味の理解、専門文献の読解、が学習テーマである。授業では、参加者の日本語読解力の確認、その結果に従った資料の選定と授業の進め方の決定、資料の音読、講読、意味の確認、新聞・雑誌の新着記事や新しい話題、図書館・インターネットの利用などについて扱う。	◎			○
	女性学日本語資料講読B	2	選択	○			「女性学日本語資料講読B」では、女性学・ジェンダー研究の専門文献、各自の研究テーマに必要な研究文献・一次資料などの精読を通じて読解力を身につけ、各自の課題を探究する力を養成することを目指す。日本語の文献資料を読み、各人の問題意識のもとに解釈する力をつけることを目的とする。主に近代日本の女性政策、ジェンダー史にかんする資料を扱う。	◎			○

人文科学研究科 女性学専攻

専攻DP（教育目標）

DP 1 女性学及びジェンダー研究に係る専門的知識を習得し、活用することができる。

DP 2 人文科学、社会科学の諸分野における女性学、ジェンダー論の視点や研究方法を理解し、女性学及びジェンダー研究において、国際的かつ学際的視野と高度な研究方法によって自ら設定した課題について探究することができる。

DP 3 ジェンダー研究の成果をもって、ジェンダー平等社会の実現に向けて、国際社会における、性差別の実態を正確に把握し、その撤廃に取り組むことができる。

DP 4 専門とする分野の必要に応じて、一つ以上の外国語によって、専門的な内容を話し、聞き、書き、読むことができるとともに、ジェンダー平等社会の実現を推進する視野と実行力を修得し、各職業領域において、多様な立場の人々が共に生きやすい社会の実現に貢献することができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
	女性学日本文資料講読C	2	選択	○			「女性学日本文資料講読C」は、女性学、ジェンダー研究の専門分野に関する日本文の資料、文献を読解する力を高めることを目的とする。授業は主に、参加者の日本語読解力等に依りて、科目担当教員が指示する日本文の資料、文献を講読することにあてる。	◎			○
コミュニケーション科目	英語コミュニケーション(口頭発表法)	2	選択	○			This course will prepare graduate students for professional communication about their own research and career-related discussions and for discussions with others about their research and careers. Topics are highlighted in the Schedule (below), but will be tailored to fit the interests of enrolled students. We will prepare for casual discussions, conference presentations and dialogue, and other professional contexts, such as job interviews.				◎
	英語コミュニケーション(論文作成法)	2	選択	○			この授業の目的は、英語のレポート作成や修士論文執筆に必要なアカデミック・ライティングの表現方法と表現形式を学ぶことにある。特に、学術的な文章で求められる文体や書式、表記などの決まりごとを知り、適切なレベルの語彙を習得し要約能力を向上させることを目指す。また、一次資料と二次資料を駆使しながら自分の考えを適切に構成し、論理を展開する力がつくよう留意したい。前半は、英語によるアカデミック・ライティングの技法のポイントを学び、ポイントごとに必要な作業や練習を行う。後半は、テーマの設定から、資料の収集、講読、論文の執筆までの一連の流れを体験する。				◎
	日本語プレゼンテーション技法	2	選択	○			大学院生に必要なプレゼンテーションスキルを学ぶ。主に聴衆や対象者とのコミュニケーションに関する基本要素を学び、さまざまな実践を通じてプレゼンテーションの基本概念と基礎技術を身につける。さらに効果的なプレゼンテーション資料の作成や、ディスカッションやディベートなどの演習を通じて、研究発表などで求められるコミュニケーション能力を養成する。題材は、身近な話題や社会的に議論のある大きなテーマ、学術的なテーマまで幅広いものとする。				◎
	日本語ライティング技法	2	選択	○			日本語という言語の性格を了解した上で、文章における日本語の役割はどのようなものであるかについて、様々な文献をとおして探求する。また、言語をどうやってうまく文章に表現できるかについても、その表現法におけるテクニックなどに関する知識は、授業でエッセイや小説や詩を通して言語の理解を深め、ライティング技法を身につける。毎回授業で用意した資料を丁寧に説明するとともに、言語と文章の関係性について詳しく説明する。必要の時に言語に関する様々な資料と方法論を読む。				◎
研修	女性学インターンシップ	2	選択	○	○		「女性学インターンシップ」は、ジェンダー研究の視点を持ち、国際的に活躍できる人材の育成を目標として設置された。英語をコミュニケーションツールとして、世界のジェンダー平等推進を担う人々と交流し、ジェンダー問題を解決するための実践力を養う事が期待される。多様なジェンダー問題を解決するための交渉の場に身を置くことで、グローバルな視点から日本の課題に取り組む力を養う。			◎	○
	グローバル実地研修	2	選択	○	○		「グローバル実地研修」において、女性学専攻の院生は、これまで学んだ女性学の知識を、研修地において実際の活動を行う中で改めて確認する。現地での作業指導を受けながら活動し、活動内容と感じた課題を日々のレポートにまとめる。活動終了後は、レポートを作成し、更に各自の研究テーマの視点から課題を設定して考察するなど、今後の研究に役立てる。			◎	○
演習	女性学演習Ⅰ	2	必修	○			「女性学演習」では、修士論文の指導を行う。授業は演習形式で行い、毎回履修者の研究テーマに即した課題を設定して論文の執筆を進める。履修者は、各学期に開催される論文中間発表会での報告を目指して、地道に研究を積み上げて欲しい。授業は、修士論文のテーマを設定し、テーマに関連する先行研究のリストを作成して十分な文献レビューを行う。履修者は順次、研究の進捗状況を報告し、ディスカッションを行うと共に個別の指導を受ける。「女性学演習Ⅰ」履修者は、研究テーマの設定、先行研究のリスト作成、文献レビューが、期待される水準に到達することを目指す。		◎	○	
	女性学演習Ⅱ	2	必修	○			「女性学演習」では、修士論文の指導を行う。授業は演習形式で行い、毎回履修者の研究テーマに即した課題を設定して論文の執筆を進める。履修者は、各学期に開催される論文中間発表会での報告を目指して、地道に研究を積み上げて欲しい。授業は、修士論文のテーマを設定し、テーマに関連する先行研究のリストを作成して十分な文献レビューを行う。履修者は順次、研究の進捗状況を報告し、ディスカッションを行うと共に個別の指導を受ける。「女性学演習Ⅱ」履修者は、研究テーマの独創性、研究方法の妥当性及び実現可能性、他研究分野との関連性が、期待される水準に到達することを目指す。		◎	○	
	女性学演習Ⅲ	2	必修	○			「女性学演習」では、修士論文の指導を行う。授業は演習形式で行い、毎回履修者の研究テーマに即した課題を設定して論文の執筆を進める。履修者は、各学期に開催される論文中間発表会での報告を目指して、地道に研究を積み上げて欲しい。授業は、修士論文のテーマを設定し、テーマに関連する先行研究のリストを作成して十分な文献レビューを行うと共に個別の指導を受ける。「女性学演習Ⅲ」履修者は、論文の章立て、論述の流れ、参考文献の把握と読解、調査の計画性が、期待される水準に到達することを目指す。		◎	○	
	女性学演習Ⅳ	2	必修	○			「女性学演習」では、修士論文の指導を行う。授業は演習形式で行い、毎回履修者の研究テーマに即した課題を設定して論文の執筆を進める。履修者は、各学期に開催される論文中間発表会での報告を目指して、地道に研究を積み上げて欲しい。授業は、修士論文のテーマを設定し、テーマに関連する先行研究のリストを作成して十分な文献レビューを行う。履修者は順次、研究の進捗状況を報告し、ディスカッションを行うと共に個別の指導を受ける。「女性学演習Ⅳ」履修者は、修士論文の完成・提出を目指す。発表会において、参考文献・調査資料の妥当性・信頼性、分析考察の周到さ、論文作成能力の到達度、論文規模等が、期待される水準に到達しているか、十分に検討される。		◎	○	

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項